

いわき市慢性腎臓病重症化予防事業
【いわきそらまめ（じん臓）生き生きプロジェクト】について

いわき市医師会

【目的】

特定健診受診後の慢性腎臓病ハイリスク対象者および通院中の患者に対し腎機能検査を行い、早期に診断、治療をすることにより慢性腎臓病重症化を予防していく。いわき市民の健康寿命の延伸、透析医療費抑制に寄与する。

【背景】

- ・国による腎疾患対策検討会において、CKDの主要な危険因子となる高血圧、糖尿病等の生活習慣病を有する患者がCKDの早期から適切な診療を受けられるよう、各医療機関に対し、早期診断・早期治療の必要性について普及・啓発を行う事が推奨されている。
- ・日本医師会の基本方針として、かかりつけ医機能の向上によりCKD対策を推進するとされている。
- ・医師の働き方改革による勤務医の負担軽減に向け、かかりつけ医による診断、継続的フォロー体制の構築が求められている。
- ・本邦におけるCKD推定患者数は1330万人であり、成人の8人に1人がCKDと推定される
- ・CKDは自覚症状に乏しく、進行すると透析や移植が必要な末期腎不全になる可能性があるだけでなく、心血管疾患のリスクも高まる。
- ・いわき市国民健康保険第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）によると一人当たり医療費では、心不全等の「その他の心疾患」が約276万円と最も高く、「腎不全」が約246万円と次いで高くなっている。
- ・いわき市においては従前から慢性腎臓病重症化予防事業に注力しており、令和6年度においても注力事業として推し進めている

【対象】

- ・特定健診受診後、いわき市から受診勧奨を受けた市民
- ・いわき市の医療機関に通院中の生活習慣病患者

【実施内容】

- ①協力医療機関および会員施設に向けた事業の説明
- ②慢性腎臓病重症化予防連絡票、ガイドラインに基づいた専門医への紹介基準による早期検査、診断、治療の普及啓発
- ③ポスター等を用いた事業の市民および医療従事者への普及啓発

【検証するアウトカム】

- ・慢性腎臓病重症化予防連絡票の送付数、返送数、診断数（国保対象者による集計）
- ・eGFR検査数の変化（健保レセプトデータを用いた拡大推計）
- ・CKD診断数の変化（健保レセプトデータを用いた拡大推計）